

フランス語発音教本にみられる 発音の説明と規範について

日本フランス語学会第331回例会
2020年6月27日

近藤野里（名古屋外国語大学）

研究の目的

- 最近出版されたフランス語の発音教本の中で、どのような発音が今日の標準フランス語として提示されているのかを分析する。
- 相補分布が進行中の**中舌母音の分布**
- 言語内的・言語外的要因が複雑に作用する**リエゾン**

教科書・発音教本を分析する動機

- 教科書に提示される母語話者（フランス語教師）が選択した規範
- 規範からは逸脱する実際の使用・変異の提示

→ 規範と実際の言語使用のバランスが観察できる

→ 規範（・教授規範）の通時的な変化が観察できる？

- Kondo, N. (2013). La liaison facultative dans l'interaction spontanée et les manuels de FLE. *Flambeau*, 38, 31-51. (査読有)
- 近藤野里(2019)「ケベックのフランス語教科書に反映される語彙的および統語的特徴」『ケベック研究』, 11号, 65～80頁.
- 近藤野里(2019)「ケベック州で出版されたフランス語教科書にみられる社会言語学的変異の反映の方法」『外国語教育研究』, 22号, 2～21頁.
- Ruvoletto, S. & Kondo, N. (forthcoming). La liaison variable : de manuels scolaires japonais au jugement, *SHS Web Conf*, 7^{ème} Congrès Mondial de Linguistique Française.

目次

- フランス語の規範
- 参照フランス語
- 標準フランス語・参照フランス語に関する先行研究
- フランス語の多様性についての研究
- 参照フランス語の音韻体系
- 発音教本について
- 発音教本音分析
 - 中舌母音
 - リエゾン
- 今後の課題

フランス語の規範 (cf. Morin, 2000)

フランス語の発音規範の2つの概念 (Morin, 2000:126)

- 「なまりがない発音」 (« parlé sans accent particulier »)
- 「ある特定の社会階級に属する話者が話すフランス語の発音」
宮廷« la plus saine partie de la Cour» (Vaugelas,1647) →パリのブルジョワ

フランス語の規範 (cf. Morin, 2000)

パリの特定の階級・職業に属する人が話すフランス語

- le « **français de la conversation soignée des milieux parisiens de l'aristocratie, puis de la bonne bourgeoisie** » (Pichon, 1938).
- le « **français parisien de la bourgeoisie cultivée** » (Fouché, 1936)
- le « **français parisien cultivé** » (Fouché, 1956)
- le français « **de la conversation sérieuse mais détendue de la classe dirigeante de la capitale** » (Malécot, 1977)

フランス語の発音規範 (cf. Morin, 2000)

北仏の教養あるフランス人が話すフランス語

- Bruneau (1931): « bourgeois parisien cultivé **plus généralement [du] *Français cultivé de toutes les grandes villes du nord de la France*** »
- Martinon (1913): « Pour que la prononciation de Paris soit tenue pour bonne, **il faut qu'elle soit adoptée au moins par une grande partie de la France du Nord.** »

フランス語の発音規範 (cf. Morin, 2002)

地理的な基準の排除

標準フランス語(le français standard)

- Léon (1968): « grosso modo représenté par **les annonceurs et les interviewers de la radio** »

標準語化されたフランス語(le français standardisé)

- Carton et al. (1983): « il semble maintenant qu'il existe, **dans toutes les régions de France** – et non plus seulement à Paris –, **une prononciation commune acceptée partout** et qu'on pourrait appeler standardisée. »

参照フランス語(français de référence)

参照フランス語(français de référence)

→Laks (2002 : 7): 「伝統的な記述と分析、音韻論者たちの直感と考察、最近の研究、特殊な用法の分析、それらを集めてできあがった1つの価値観」

標準フランス語・参照フランス語に関する先行研究

- Detey & Le Gac(2008, 2010)による知覚的アンケート調査に基づく研究

「フランス語母語話者は、標準的なフランス語を話す理想の話者のイメージを持つのか？」

→母語話者参照することができる発音のイメージを持っていて、そのイメージはある話し手によって多少なりとも実現されている。

標準フランス語・参照フランス語に関する先行研究

・インフォーマント

- ・FRの話者だと想定される男性2名 SDとDL
- ・なまりのないパリ出身者 PAR
- ・ビアリッツ出身者 BIA
- ・レユニオン島出身者 REU

・評価タスク

- ・単語リスト、短いテキストの読み上げ、自由会話
- ・58人のフランス語母語話者が評価 「自分の発音との違い」 「**標準フランス語との近さ**」

・結果

- ・テキストの読み上げと自由会話：DL (5,2) > SD (4,7) > PAR (4,6) > BIA (3,43) > REU (2,72)
Detey & Le Gac (2008, 2010)

フランス語の多様性についての研究

PFCプロジェクト(Phonologie du Français Contemporain)

「現代フランス語の音韻論：言語使用、変異、構造」

- Jacques Durand, Bernard Laks, Chantal Lycheを中心に、話しことばの大規模なデータベースの構築が指された。
- 1999年から700件を超える録音がフランス語圏の各地で行われている。
- 調査方法の一貫性→データの互換性（単語の読み上げ、テキストの読み上げ、自由会話、インタビュー、社会言語学的アンケート）
- プロジェクトの成果
 - DETEY, S., DURAND, J., LAKS, B. & LYCHE, C. (éds) (2010). *Les Variétés du français parlé dans l'espace francophone, Ressources pour l'enseignement*. Paris : Editions Ophrys.
 - DETEY, S., DURAND, J., LAKS, B. & LYCHE, C. (eds) (2016). *Varieties of Spoken French*. Oxford: Oxford University Press.
 - 日本語版 DETEY, S., DURAND, J., LAKS, B. & LYCHE, C. (éds) (2019). 『フランコフォンの世界 コーパスが明かすフランス語の多様性』 川口裕司, 矢頭典枝, 秋廣尚恵, 杉山香織（日本語版編訳）, 三省堂.

参照フランス語の音韻体系(cf. Lyche, 2010)

- **参照フランス語 (français de référence: FR)** : FLE教育の基盤をなし、正音学の大部分において記述される用法を意味する(cf. Lyche, 2010)
- Lyche (2010): 「FRは、正音学者たちがFLE教育のために提案した体系であり、伝統的な音声記述や正音学者たちの観察と、時には偏見に基づいた体系である。また、フランス語の教科書に掲載された音素目録はどれも同じ目録であり、音韻論に対してかなり保守的な立場をとっているといえる」 (訳: 川口、他 (編訳) (2019)『フランコフォンの世界 コーパスが明かすフランス語の多様性』三省堂, p. 45)

参照フランス語の音韻体系(cf. Lyche, 2010)

表 1 : FRの母音音素(Lyche, 2010)

	口母音			鼻母音		
高・狭母音	i	y	u			
半高・半狭母音	e	ø	o			
半低・半広母音	ɛ	œ (ə)	ɔ	ẽ	(œ̃)	õ
低・広母音		a	(ɑ)			ã

- [ɑ]や[œ̃]は体系から消えつつある(Lyche, 2010)。
- シュワアの発音は、環境、地域、個人によって[ə, ø, œ]などに変化する(Lyche, 2010)

参照フランス語の音韻体系(cf. Lyche, 2010)

表 2 : 語末音節と母音音素(Lyche, 2010)

語末開音節					語末閉音節			
高・狭母音	i	y	u		高・狭母音	i	y	u
半高・半狭母音	e	ø	o		半高・半狭母音		ø	o
半低・半広母音	ɛ				半低・半広母音	ɛ	œ	ɔ
低・広母音		a			低・広母音		a	

- 20世紀の音声学者たち(Fouché 1935, Delattre 1951, Straka 1981)によって「位置の法則(loi de position)」が指摘されてきた。
- 位置の法則：＝開音節に半狭母音 ([e, ø, o]) があらわれ、閉音節([ɛ, œ, ɔ])に半広母音があらわれる。

標準フランス語・参照フランス語に関する先行研究

・インフォーマント

- ・FRの話者だと想定される男性2名 SDとDL
- ・なまりのないパリ出身者 PAR
- ・ビアリッツ出身 BIA
- ・レユニオン島出身者 REU

・評価タスク

- ・単語リスト、短いテキストの読み上げ
- ・58人のフランス語母語話者が評価

・結果

- ・テキストの読み上げと自由会話

・ SD, DL: /a/ ~ /ɑ/の区別なし

・ DL, PAR: 鼻母音 /œ̃/ ~ /ɛ̃/ の区別なし

・ SD: /ø/ ~ /œ/, /o/ ~ /ɔ/ が中和しつつある

・ DL: /ø/ ~ /œ/, /o/ ~ /ɔ/ の対立がある

・ SD: /e/ ~ /ɛ/ が中和している

・ DL: /e/ ~ /ɛ/ の対立がある

(2,72)

(2010)

参照フランス語の音韻体系(cf. Lyche, 2010)

表 3 : FRの子音音素(Lyche, 2010)

	両唇音	唇歯音	歯音	歯茎音	前部口蓋音	硬口蓋音	軟口蓋音	口蓋垂音
無声破裂音	p		t				k	
有声破裂音	b		d				g	
鼻音	m		n			(ɲ)	(ŋ)	
無声摩擦音		f		s	ʃ			
有声摩擦音		v		z	ʒ			ʁ
有声側面音				l				
接近音						ɥ, j	w	

参照フランス語の音韻体系(cf. Lyche, 2010)

表 3 : FRの子音音素(Lyche, 2010)

	両唇音	唇歯音	歯音	歯茎音	前部口蓋音	硬口蓋音	軟口蓋音	口蓋垂音
無声破裂音	p		t				k	
有声破裂音	b		d				q	
鼻音	m		n			(ɲ)	(ŋ)	
無声摩擦音		f		s	ʃ			
有声摩擦音		v		z	ʒ			ʁ

• ここ 1 世紀の間のFRの子音体系の変化(cf. Lyche, 2010)

- /R/の調音が口蓋垂音[ʁ]に固定した。
- 借用語の *parking*, *casting* などで、軟口蓋音[ŋ]が一般化した。
- 多くの話者が、硬口蓋鼻音[ɲ]の代わりに[nj]を使用するようになった。

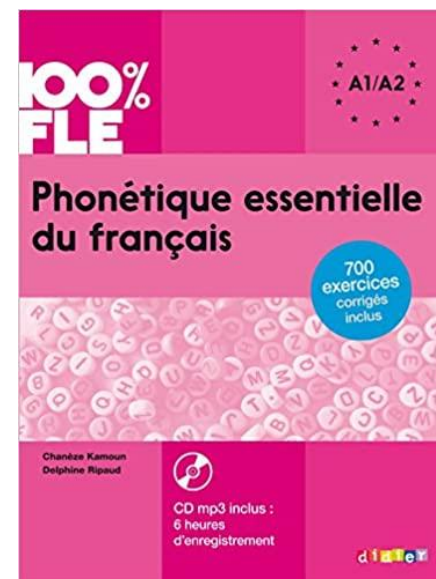
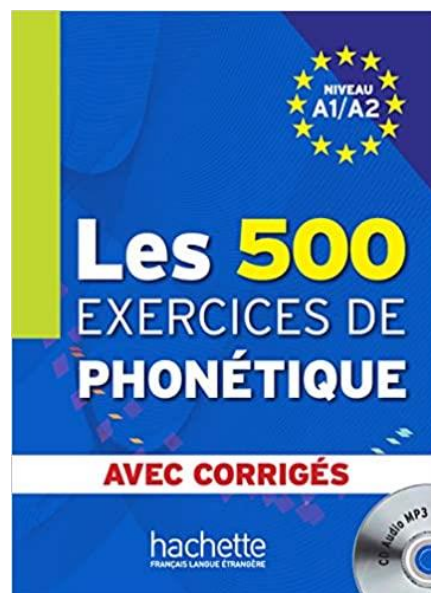
研究の目的

- 最近出版されたフランス語の発音教本の中で、どのような発音が今日の標準フランス語として提示されているのかを分析する。
- 相補分布が進行中の**中舌母音の分布**
- 言語内的・言語外的要因が複雑に作用する**リエゾン**

発音教本について

表 4 : 発音教本一覧

著者・発行年	教科書の名前	出版社	ページ数／練習問題数／（音声教材の収録時間数）
Abry & Chalaron (2019a)	Les 500 exercices de phonétique niveau A1/A2	Hachette	192ページ／500／6時間45分
Abry & Chalaron (2019b)	Les 500 exercices de phonétique niveau B1/B2	Hachette	224ページ／500／6時間12分
Charliac et al (2018)	Phonétique progressive du français 2 ^e édition niveau A1	CLE International	144ページ／450
Charliac & Motron (2018)	Phonétique progressive du français 2 ^e édition niveau A2-B2	CLE International	192ページ／600
Kamoun & Ripaud (2016)	Phonétique essentielle du français A1/A2	Didier	215ページ／700／6時間
Kamoun & Ripaud (2017)	Phonétique essentielle du français B1/B2	Didier	216ページ／650／5時間



発音教本について

発音教本で説明されるフランス語の発音の要素

- 韻律（プロソディー）：アクセント、イントネーション
- アンシェヌマン、リエゾン、エリジオン
- 母音
- 子音
- その他

- [ɑ]や[œ]は扱われていない。
- [ŋ]の発音の説明が見られない。
- 硬口蓋鼻音[ɲ]の代わりに[nj]が提示されることはない。

発音教本について

発音教本にみられるフランス語の説明

- Le livre contient [...] des explications simples et fondamentales sur **le système phonétique du français standard** [...] [...] (Abry & Chalaron, 2019a)
- Cet ouvrage pratique propose : des explications sur **le système phonétique du français standard**[...] (Abry & Chalaron, 2019b)

発音教本の分析

中舌母音とリエゾンについて発音教本における発音の説明・練習問題を分析し、音声学・音韻論の先行研究によって明らかにされてきたことと比較する。

中舌母音

中舌母音の分布(cf. Durand & Lyche, 2002)

表 5 : 語末音節における中舌母音の分布(cf. Durand & Lyche, 2002)

	ø~œ, ɔ~ɔ	e~ ε
開音節	ø, ɔ	e thé ~ taie les ~ lait été ~ était
閉音節	œ, ɔ 語末の子音が[k] : œ, ɔ 語末の子音が[z] : ø, ɔ veule ~ veulent, jeûne ~ jeune haute ~ hotte, saule ~ sol, rauque ~ roc, Beauce ~ bosse, paume ~ pomme	ε

中舌母音の分布

- Lyche (2010) : 開音節における /e/ ~ /ɛ/ の対立は危機にさらされている。音声記述の多くで、実現形が [e] と [ɛ] の中間の音色になると述べたり、位置の法則に従う傾向も指摘される。
/o/ ~ /ɔ/ や /ø/ ~ /œ/ の対立については、若い世代で消失傾向にあるが、参照フランス語から消えてしまったわけではない。
- Hall (2019) : 語末開音節における /e/ ~ /ɛ/ の対立の中和はノルマンディー地方でも特に若い話者の間で定着している。また音響音声学的にも [e] ~ [ɛ] の中和が見られる。

発音教本における中舌母音の説明・練習問題

表 6 : 発音教本における中舌母音の項目

Abry & Chalaron (2019a)	Abry & Chalaron (2019b)	Charliac et al (2018)	Charliac & Motron (2018)	Kamoun & Ripaud (2016)	Kamoun & Ripaud (2017)
/e/ ~ /ɛ/ /ø/ ~ /œ/ /o/ ~ /ɔ/ /E/ ~ /œ/ ~ /O/	/E/ : [e] - [ɛ] /œ/ : [ø] - [œ] - [ə] /O/ : [o] - [ɔ]	/y/ - /œ/ /E/ - /ə/ /œ/ - /E/ /œ/ - /O/ /œ/ - /u/	/i/ - /e/ /i/ - /ɛ/ /e/ - /ɛ/ /e/ - /ɑ/ /o/ - /ɔ/ /o/ - /u/ /y/ - /ø/ /o/ - /ø/ /u/ - /ø/ /ø/ - /œ/ /e/ - /ə/	[e] - [ɔ] - [a] [e] - [ø] [ɛ] - [œ] [ø] - [u] [ø] - [o] [œ] - [ɔ] [i] - [e] - [ɛ] [y] - [ø] - [œ] [u] - [o] - [ɔ]	[ə] - [e] - [ɔ] - [a] [ø] - [e] - [ɛ] - [a] [ø] - [œ] - [o] - [ɔ] [ø] - [y] - [o] - [u]

発音教本における中舌母音の説明・練習問題

/e/~/ε/ :

- 綴り字、動詞の時制・法に基づいた発音の違い
- 規範(norme・prononciation officielle)と使用(usage)の違い

/ø/~/œ/

- 音節の種類による発音の違い
- [z] ([t]) の前での[ø]の発音
- 特定の語彙での発音

/o/~/ɔ/

- 音節の種類による発音の違い
- 綴り字に基づいた発音の違い
- [z]の前での[o]の発音
- 特定の語彙での発音

語末開音節におけるe~ εの対立

表7：綴り字の違いによるe~ εの対立

	[e]	[ε]	
ai	gai	mai , lait, paix, plaît, baie, portrait, mais, fait, craie	Abry & Chalaron (2019a) Abry & Chalaron (2019b) Charliac & Motron (2018) Charliac & Motron (2018)
-et		bouquet, ticket, billet, jouet, alphabet, sommet, trajet,	Abry & Chalaron (2019a)
	et		Kamoun & Ripaud (2016)
-êt		arrêt, forêt, prêt	Abry & Chalaron (2019a)
-ès		progrès, succès, très, procès, abcès, près	Abry & Chalaron (2019a) Kamoun & Ripaud (2017)
-es	les, mes		Kamoun & Ripaud (2016) Kamoun & Ripaud (2017) Charliac & Motron (2018)
-é, -ée, -er, -ez, -ed, -ef	bébé, été, député, soirée, cuillerée, assemblée, dîner, épicier, quartier chez, nez, vous savez		Abry & Chalaron (2019b) Kamoun & Ripaud (2016) Charliac & Motron (2018)

語末音節におけるe~ εの対立

表 8 : 動詞の時制・法に従ったe~ εの対立

	[e]	[ɛ]	
Présent	j'ai, je vais, c'est	tu es, il est, je sais, je vais, c'est	Abry & Chalaron (2019a) Abry & Chalaron (2019b) Kamoun & Ripaud (2016)
Futur	je partirai, j'irai, j'aimerai (Abry & Chalaron, 2019b)	je partirai, j'irai, j'aimerai (Abry & Chalaron, 2019a)	Abry & Chalaron (2019a) Abry & Chalaron (2019b) Charliac & Motron (2018)
Passé simple	Je parlai, je cherchai, j'aimai		Abry & Chalaron (2019b) Charliac & Motron (2018)
Imparfait		je dormais, tu dormais...	Abry & Chalaron (2019a) Abry & Chalaron (2019b)
Conditionnel		je voudrais, tu voudrais...	Abry & Chalaron (2019a) Abry & Chalaron (2019b)
Passé composée	j'ai parlé, j'ai cherché		Abry & Chalaron (2019b)

語末開音節におけるe~ εの対立

発音の中和についての説明

①単純未来と条件法、単純過去と半過去の伝統的な弁別は実現されなくなっている (Abry & Chalaron, 2019) ; 単純未来と条件法現在に違いをつけている人もまだいる (Kamoun & Ripaud, 2017)

②[e]が規範的な発音だが、[ε]とも発音される : *j'ai, je vais* (Abry & Chalaron, 2019a)

③[e]が[ε]と発音されるのが日常的である : *j'ai* (Abry & Chalaron, 2019b)

④[ε] が規範的な発音だが、[e]とも発音される : *je sais, je vais, tu es, il est, c'est* (Abry & Chalaron, 2019b)

⑤[e]もしくは[ε] : *mais, j'ai, c'est* (Kamoun & Ripaud, 2016 ; Kamoun & Ripaud, 2017)

⑥語末の*ai* (*gai, j'aimai, j'aimeraï*) : 中間的な/E/が聞かれる (Charliac & Motron, 2018)

→規範的な発音が提示されるが、発音の中和についても言及される場合もある。

語末閉音節におけるø ~œの対立

表 9 : 語末閉音節におけるø ~œの対立

	ø		œ	
	開音節	閉音節		
eu, oeu	lieu, feu, heureux, des oeufs, des boeufs, voeu		coiffeur, meuble, veuve, oeuf, oeuvre, une soeur	Abry & Chalaron (2019b)
euil, cueil, gueil, oeuil			deuil, feuille, seuil, accueil, orgueil, cueillir, oeuil	Abry & Chalaron (2019b)
[z]の前		[z] :heureuse, coiffeuse, curieuse		Abry & Chalaron (2019a) Abry & Chalaron (2019b)
規範的な発音		[-l] : meule [-t] : meute, émeute [-tr] : feutre, neutre, pleutre [-n] : jeûne,		Abry & Chalaron (2019b)
eu + [z], [t]		[-z] : coifferuse, précieuse [-t(r)] : feutre, thérapeute		Kamoun & Ripaud (2016) Kamoun & Ripaud (2017) Charliac & Motron (2018)
eû		[-n] : jeûne		Kamoun & Ripaud (2017) Charliac & Motron (2018)

語末閉音節におけるø ~ œの対立

音節の種類による説明：

- 音節が母音で終わる場合（開音節）には、常に[ø]が聞かれる (Abry & Chalaron, 2019a)
- 音節が子音で終わる場合（閉音節）には、[z]の前以外では、[œ]が聞かれる (Abry & Chalaron, 2019a; Abry & Chalaron, 2019b)

綴り字に基づいた説明：

- 語末のeu, oeu + **発音されない子音（字）** では[ø]が発音される (Kamoun & Ripaud, 2016 ; Kamoun & Ripaud, 2017 ; Charliac & Motron, 2018)
- eu, oeu + **発音される子音（字）** では[œ]が発音される (Kamoun & Ripaud, 2016 ; Kamoun & Ripaud, 2017 ; Charliac & Motron, 2018)

語末閉音節におけるo~ɔの対立

表10：語末閉音節におけるo~ɔの対立

	o		ɔ	
	開音節	閉音節		
綴り字o	repos, radio, cacao. mot	o + [z] : chose, scoliose, dose, rose, morose	choc, corps, pilote, époque	Abry & Chalaron (2019b)
		o + [s] : grosse, cosmos		Kamoun & Ripaud (2017)
		o + [n] : zone, hexagone, cyclone, clone		Kamoun & Ripaud (2017)
au, eau		haute, chaude, fausse, cause, saute, gauche, jaune, astronaute, autre, pause, clause, épaule,		Abry & Chalaron (2019a) Abry & Chalaron (2019b) Kamoun & Ripaud (2017) Charliac & Motron (2018)
ô		diplôme, contrôle, drôle, le vôtre, symptôme, fantôme, côte		Abry & Chalaron (2019a) Abry & Chalaron (2019b) Kamoun & Ripaud (2017) Charliac & Motron (2018)

語末閉音節におけるo~ɔの対立

音節の種類による説明：

- 音節が母音で終わる場合（開音節） には、常に[o]が聞かれる (Abry & Chalaron, 2019b)
- 音節が子音で終わる場合（閉音節） には、[z]の前以外では、[ɔ]が聞かれる (Abry & Chalaron, 2019b)

綴り字による説明：

- 閉音節では « au », « ô »は[o]と発音される (Abry & Chalaron, 2019b)

まとめ

- /e/~/ε/: 規範的な発音と実際の言語使用についての言及
→特定の語彙では、対立の中和が明示される
 - /ø/~/œ/および/o/~/ɔ/の中和については言及されない
 - 音節の種類と特定の子音の前での発音([z]の前では[o], [ø])
 - 綴り字と発音の対応についての説明
 - ミニマルペアの提示がほとんどない (ex. *jeune* vs *jeûne*)
- 中舌母音全体の分布に関わる「位置の法則」についての言及はないが、対立が中和する例が提示される

リエゾン

リエゾン

- リエゾンの定義：発音されない語末子音字が、あとに続く語が母音で始まる場合に後続語の語頭に音節化されて発音される。
例： *les* [le] + *amis* [ami] → *le**s** amis* [le.**z**a.mi]
- リエゾンは条件がそろった場合であっても常に実現されるわけではなく、伝統的には義務的リエゾン、選択的リエゾン、禁止的リエゾンという3種類のコンテキストに分類される (cf. Delattre, 1947; Fouché, 1959)。

Delattre (1947) によるリエゾンの分類

表11：リエゾンの分類(Delattre, 1947)

	義務的	選択的	禁止的
名詞	限定詞+名詞／形容詞 <i>vos [z] enfants</i> 形容詞+名詞 <i>un ancien [n] ami</i>	名詞(複数形)+ <i>des soldats [z] anglais</i> <i>ses plans [z] ont réussi</i>	名詞(単数形) <i>un soldat // anglais</i> <i>son plan // a réussi</i>
動詞	代名詞+動詞 <i>ils [z] ont compris</i> 動詞+代名詞 <i>ont [t]-ils compris</i> <i>allons [z] -y</i>	動詞+ <i>je vais [z] essayer</i> <i>j'avais [z] entendu dire</i> <i>vous êtes [z] invité</i> <i>ils commencent [t] à lire</i>	
不変化語	単音節語 <i>en [n] une journée</i> <i>très [z] intéressant</i>	複数音節語 <i>pendant [t] un jour</i> <i>toujours [z] utile</i>	<i>et +</i> <i>et // on l'a fait</i>
凝結表現および 特殊な場合	<i>comment [t] allez-vous</i> <i>les Etats [z]-Unis</i> <i>tout [t] à coup</i> <i>de temps [z] en temps</i>		+ 有声の <i>h</i> <i>des // héros</i> + <i>un, onze, huit</i> <i>la cent // huitième</i>

Delattre (1947) によるリエゾンの分類

表12: 動詞についての補足(Delattre, 1947)

義務的	選択的
<i>c'est (impersonnel) +</i> <i>c'est impossible</i> <i>il est (impersonnel) +</i> <i>il est évident...</i>	verbe + <i>je suis imbattable</i> <i>ils sont heureux</i> <i>il est à l'hôtel</i> <i>vous avez envie de rire</i> <i>il fait un pas</i> <i>il prend un livre</i> <i>tu es invité etc</i> + participe passé <i>qu'avez-vous entendu</i> <i>avez-vous bien observé</i> <i>ont-ils tout apporté</i> <i>nous l'avons appris etc</i>

PFCコーパスに基づいたDurand & Lyche (2008)によるリエゾンの分類

- 「義務的obligatoire」 → **絶対的リエゾン**(liaison catégorique)
- 「選択的facultative」 → **変動的リエゾン**(liaison variable)
- 「禁止的interdite」 → **事実上不在のリエゾン**(liaison erratique)

PFCコーパスに基づいたDurand & Lyche (2008)によるリエゾンの分類

①**絶対的リエゾン**：必ずリエゾンが実現される。

- a. 限定詞+名詞: ***un** [n] **ami***
- b. 後接辞+動詞: ***vous** [z] **avez**...*
- c. 動詞+後接辞: *comment **dit**-[t] **on***
- d. 複合語や成句: ***pot**-[t] **au**-feu*

PFCコーパスに基づいたDurand & Lyche (2008)によるリエゾンの分類

②**変動的リエゾン**：リエゾンが実現されたり、されなかったりする。

e. 前置詞+：***dans** [z] un an*

f. 副詞+：***très** [z] utile*

g. 前置形容詞+名詞：***grand** [t] honneur*

h. 動詞+冠詞：***c'est** [t] un X*

- Delattre (1947)によって義務的リエゾンに分類されていた単音節の不変化語である前置詞や副詞とその後続語や、形容詞が名詞に前置するコンテキスト→絶対的リエゾンではない
- 変動的リエゾンは、リエゾンの実現頻度が比較的高いものから、低いものまであり、リエゾンが実現されやすいのは朗読といったレジスターで文字を読む場合である (cf. Mallet, 2008)。

PFCコーパスに基づいたDurand & Lyche (2008)によるリエゾンの分類

②変動的リエゾン：リエゾンが実現されたり、され

e. 前置詞+：***dans* [z] *un an***

f. 副詞+：***très* [z] *utile***

g. 前置形容詞+名詞：***grand* [t] *honneur***

h. 動詞+冠詞：***c'est* [t] *un X***

- Delattre (1947)によって義務的リエゾンに分類されていた単音節の不変の後続語や、形容詞が名詞に前置するコンテキスト→義務的ではない
- 変動的リエゾンは、リエゾンの実現頻度が比較的高いものから、低いものまであり、されやすいのは朗読といったレジスターで文字を読む場合である (cf. M)

前置形容詞+名詞 (Coquillon *et al*, 2010; Durand *et al*, 2011:116)

***grand émoi* :**

リエゾンの実現あり (208例) /

なし (41例) /

[n]のリエゾン (4例) /

[d]のリエゾン (3例)

***grand honneur* :**

リエゾンの実現あり (241例) /

なし (14例) /

[n]のリエゾン (1例) /

[d]のリエゾン (1例)

PFCコーパスに基づいたDurand & Lyche (2008)によるリエゾンの分類

③**事実上不在のリエゾン**：リエゾンが実現されない。

- i. 単数名詞 + 形容詞: ***un bois // immense***
- j. 接続詞 *et* + : *un garçon **et // une** fille*
- k. +有音の *h*: ***les // haricots***

リエゾンの実現に関わる言語内的要因、言語外的要因

- **言語内的要因**：「語の長さ」、「語の使用頻度」など

- ex. *très* [z] *intéressant* vs *vraiment* [t] *intéressant*

- 語の使用頻度：リエゾンの文脈にある2つの語の共起頻度がリエゾンの実現に影響する (cf. Bybee, 2005)。

- **言語外的要因**：スタイル、レジスターの違い、社会階級、年齢など

- Mallet (2008)による PFCコーパスの調査：会話(45.9%)と朗読(63.2%)のリエゾンの実現率の違い

- 変動的リエゾンの実現に関する話者の判断は実際の言語使用に基づかない可能性がある→変動的リエゾンについては規範的感覚が強く表れる (Ruvoletto & Kondo, forthcoming)

発音教本の中のリエゾンの説明

表13：リエゾンに関する項目

Abry & Chalaron (2019a)	Abry & Chalaron (2019b)	Charliac et al (2018)	Charliac & Motron (2019)	Kamoun & Ripaud (2016)	Kamoun & Ripaud (2017)
Liaisons et enchaînements	Les liaisons et les enchaînements	La liaison	La continuité : la liaison	La liaison	La liaison obligatoire La liaison et les registre

- **リエゾンの3つのコンテキスト**
- 綴り字とリエゾン子音の対応
- リエゾン子音 [z], [t], [n] > [ʁ], [p], [g]
- レジスター・スタイルによる選択的リエゾンの実現頻度の違い

発音教本におけるリエゾンの分類

表14：発音教本における義務的リエゾン

義務的リエゾン	コンテキスト	
名詞句	限定辞+名詞(句)	<i>des amis</i>
	形容詞+名詞	<i>un petit ours</i>
	数詞 <i>un, deux, trois</i> +名詞/代名詞	<i>deux ans</i>
動詞句	代名詞+動詞	<i>ils ont</i>
	代名詞+代名詞	<i>ils en ont</i>
	動詞+代名詞	<i>ont-ils</i>
不変化語	前置詞(単音節) <i>sous, chez, sans, dans</i> +名詞句 (Abry & Chalaron, 2019a ; Kamoun & Ripaud, 2017)	<i>dans une maison</i> <i>en hiver</i>
	前置詞 <i>en</i> + (Abry & Chalaron, 2019a)	
	副詞(単音節)	<i>très actif</i>
	接続詞 <i>quand</i> + 代名詞/名詞	<i>quand il</i>
	<i>dont</i> (Abry & Chalaron, 2019b)	<i>dont il</i>
その他	凝結表現: <i>tout à coup, de temps en temps</i>	

発音教本におけるリエゾンの分類

表15：発音教本における禁止的リエゾン

禁止的リエゾン
et +
<i>selon, sinon</i> +
疑問副詞 <i>quand, comment, combien</i> +
有声の h の前
+ <i>huit, un, onze</i>
名詞句 + 動詞
名詞(単数) + 形容詞(単数)
<i>certain, quelqu'un</i> + 動詞
動詞 + • <i>-rs, -rt, -rd</i> で終わる形容詞、動詞、前置詞ではリエゾンしない(Abry & Chalaron, 2019b)→[K]のアンシェヌマン • 動詞の後 (Kamoun & Ripaud, 2017 (;Charliac & Motron, 2018))
副詞(複数音節) (Charliac & Motron, 2018)

発音教本におけるリエゾンの分類

表16：発音教本における選択的リエゾン

選択的リエゾン	
名詞句	名詞＋形容詞(複数形)
動詞句	助動詞＋不定詞／過去分詞 (Abry & Chalaron, 2019b)
	特定の動詞(<i>être, avoir, aller</i>) (Kamoun & Ripaud, 2017)
	動詞＋補語(前置詞句・副詞) (Abry & Chalaron, 2019b)
不変化語	否定辞 <i>pas, plus, rien</i> (Abry & Chalaron, 2019b ; (Kamoun & Ripaud, 2017))
	副詞(複数音節)(Abry & Chalaron, 2019b)
	前置詞(複数音節) <i>après, avant, depuis, devant...</i> (Abry & Chalaron, 2019b)
	<i>mais</i> (Abry & Chalaron, 2019b)

発音教本におけるリエゾンの分類

表17：発音教本の分類とDelattre (1947)およびDurand & Lyche (2008)の比較

	発音教本	Delattre (1947)	Durand & Lyche (2008)
形容詞＋名詞	義務的	義務的	変動的リエゾン
前置詞＋	単音節→義務的 複数音節→選択的	単音節→義務的 複数音節→選択的	変動的リエゾン
副詞	単音節→義務的 <i>pas, plus, rien</i> →選択的 複数音節→選択的・禁止的	単音節→義務的 複数音節→選択的	変動的リエゾン
動詞	✕	c'est, il est →義務的 その他→選択的	変動的リエゾン

発音教本における動詞のリエゾンについての説明

表18：発音教本における動詞のリエゾンについての説明

動詞＋	
選択的	禁止的
- 助動詞＋不定詞／過去分詞 (Abry & Chalaron, 2019b) - 特定の動詞(<i>être, avoir, aller</i>) (Kamoun & Ripaud, 2017) - 動詞＋補語 (前置詞句・副詞) (Abry & Chalaron, 2019b)	-rs, -rt, rdで終わる形態 (形容詞、動詞、前置詞) ではリエゾンしない ([ʁ]のアンシェヌマン) (Abry & Chalaron, 2019b) - 動詞の後 (Kamoun & Ripaud, 2017; Charliac & Motron, 2018))

- Kamoun & Ripaud (2017) : 特定の動詞 (特に*être, avoir, aller*) は選択的リエゾン (*je suis épuisé*)、それ以外の動詞は禁止的リエゾンに分類される (*je prends un café*)
- Abry & Chalaron (2019b) : *Si tu sors avec lui* [sɔ-ra-vɛk] *au casino*

発音教本の練習問題・音声でのリエゾン

「リエゾンに関する練習問題の音声でどのようにリエゾンが実現されているか？」

- 練習問題を転写
- 教本付属のCDを聞き、リエゾンの有無を確認
- メタデータの作成
- リエゾンの実現率をPFCコーパス(Mallet, 2008)と比較

表19: 発音教本のリエゾン練習問題におけるリエゾンの実現率

	実現	非実現	合計	実現率	PFC コーパス(Mallet, 2008)
形容詞+名詞	68	2 (+4)	70 (74)	97.14% (91.89%)	-
前置詞 (単音節)	71	0	71	100%	<i>en</i> : 97.9% <i>en</i> 以外: 91.91%
前置詞 (複数音節)	-	-	-	-	0%
副詞(単音節)	33	1	34	97.06%	35.99%
副詞(複数音節)	5	6	11	45.45%	-
動詞+	65	42	107	60.75%	<i>être</i> : 27,22% <i>avoir</i> : 3,45% ₅₅

発音教本のリエゾン練習問題におけるリエゾンの実現率

形容詞+名詞：

- アンシェヌマンのないリエゾン（4例）
- リエゾンの実現がない2例：*un fort // accent, mauvaises // intentions*

前置詞(単音節) +：

- *en, chez, dans, sans, sous, aux*

前置詞（複数音節） +：

- データなし

発音教本のリエゾン練習問題におけるリエゾンの実現率

副詞（単音節）：

- *bien* (11/11), *rien* (1/1), *trop* (2/2), *tant* (1/1), *tout* (2/2), *moins* (1/1), *pas* (3/4), *plus* (7/7), *très* (5/5)
- リエゾンの実現がない1例: ***pas***

副詞（複数音節）：

- *beaucoup* (2/4), *autant* (0/2), *seulement* (0/1), *passionnéement* (1/1), *souvent* (1/2), *vraiment* (1/1)

リエゾンの練習問題における動詞のリエゾン実現率

表20: 動詞の種類によるリエゾンの実現率

	être (be)	avoir (have)	その他の動詞	Total
発音教本の練習問題	81.03% (47/58)	38.46% (5/13)	36,11% (13/36)	60.75% (65/107)
PFC コーパス Mallet (2008)	27,22% (374/1374)	3,45% (38/1100)	-	-

- 発音教本におけるêtre動詞のリエゾンの実現率はそれ以外の動詞と比較すると高い。
- 発音教本におけるêtre動詞のリエゾンの実現率はPFCコーパスよりも高い。
- « c'est » « est »のあとのリエゾンの例では、リエゾンの実現がないものもある。
- 語末の綴りが $-rt$, $-rs$, $-rd$ などの[ʁ]で終わる動詞の活用形(*court, mort, part, sert, dors, pars*)ではリエゾンが実現されない
 - 例: *Il part // en [n] Italie. Elle court // acheter le dernier Ipod.*

リエゾンの練習問題における動詞のリエゾン実現率

表21: être動詞のリエゾンの実現率

	発音教本		PFC コーパス Mallet (2008)	
	%	N	%	N
<i>suis</i>	33.33%	3	13,49%	430
<i>es</i>	-	-	0%	53
<i>est</i>	89.47%	19	43,87%	636
<i>c'est</i>	80%	15	-	-
<i>sommes</i>	66,67%	6	44,44%	27
<i>êtes</i>	80%	5	31,25%	16
<i>sont</i>	100%	3	19,23%%	208
<i>étais</i>	100%	1		
<i>était</i>	80%	5	8%	343
<i>serait</i>	33,33%	3	-	-

リエゾンの練習問題における動詞のリエゾン実現率

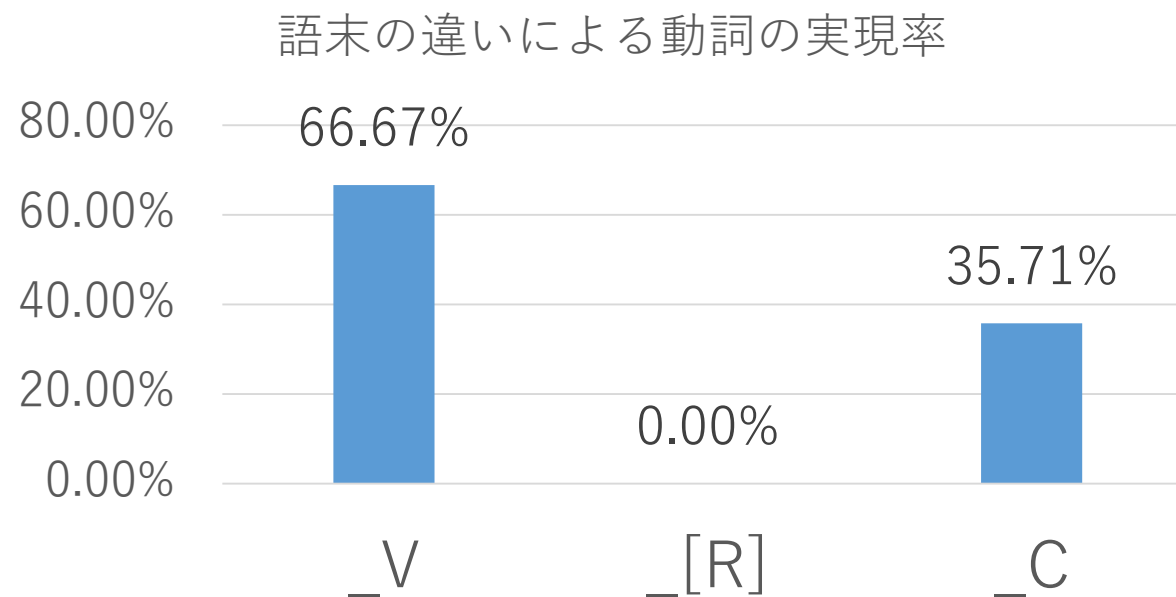
- その他の動詞については語末の音節構造（①_V=母音で終わる、②_[R]=[ʁ]で終わる、③_ C= [ʁ] 以外の子音で終わる）によって、リエゾンの実現率が異なる。

- 例

①_V: On **peut** y aller ?

②_[R] : Elle **court** acheter le dernier Ipod.

③_C : Elles vous **disent** au revoir !



まとめ

- 発音教本におけるリエゾンの説明は基本的にはDelattre(1947)の分類に類似する（「形容詞+名詞」、「前置詞（単音節・複数音節）+」、「副詞（単音節）+」）。
- 「副詞+」：単音節の副詞のリエゾンは義務的コンテキストに分類される。一方、複数音節の副詞については教科書によって揺れがある。
- 「動詞+」：教本によって説明が異なる。
 - « c'est + », « est + » のリエゾンの実現はDelattre (1947)の分類では義務的コンテキストであるが、教科書では必ずしもその通りではない。
 - être動詞のリエゾンの実現率は高いものの、avoirやそれ以外の動詞のリエゾン実現率は高いとはいえない。
 - être/avoir以外の動詞は、語末の音節構造によってリエゾンの実現率が異なる。

まとめと今後の課題

- [a]や[œ]は扱われていない。
- [ŋ]の発音の説明が見られない。
- 硬口蓋鼻音[ɲ]の代わりに[nj]が提示されることはない。
- 中舌母音全体の分布については「位置の法則」の傾向に従うという説明はないが、語末開音節における/e/~/ε/の中和の傾向については言及される。
- リエゾンについては、Delattre(1947)の分類に類似したものが提示されるが、そうではない場合 (ex. c'est, il est...) もある。

まとめと今後の課題

- リエゾンの分析については、発音教本付属の音声データ全体を対象として調査する必要がある。
- 今回は中舌母音とリエゾン进行分析対象としたが、今後はシュワの発音についても考察する。
- 過去に出版された発音教本と今後出版される発音教本を長期的に調査することで、教科書における規範の通時的変化を観察したい。

参考文献

- ABRY, D. & CHALARON, M-L. (2019a). *Les 500 exercices de phonétique niveau A1/ A2*. Paris : Hachette.
- ABRY, D. & CHALARON, M-L. (2019b). *Les 500 exercices de phonétique niveau B1/ B2*. Paris : Hachette.
- CHARLIAC, L., LE BOUGNEC, J-T., LOREIL, B. & MOTORON, A-C. (2018). *Phonétique progressive du français 2^e édition niveau A1*. Paris : CLE-International.
- CHARLIAC, L. & MOTORN, A-C. (2018). *Phonétique progressive du français 2^e édition niveau A2-B2*. Paris : CLE-International.
- DELATTRE, P. (1947). Liaison en français, tendances et classification. *The French Review*, 22 (2), pp.148-147.
- DETEY, S., DURAND, J., LAKS, B. & LYCHE, C. (éds) (2010). *Les Variétés du français parlé dans l'espace francophone, Ressources pour l'enseignement*. Paris : Editions Ophrys.
- DETEY, S., DURAND, J., LAKS, B. & LYCHE, C. (éds) (2010). 『フランコフォンの世界 コーパスが明かすフランス語の多様性』川口裕司, 矢頭典枝, 秋廣尚恵, 杉山香織 (日本語版編訳), 三省堂.
- DETEY, S., DURAND, J., LAKS, B. & LYCHE, C. (eds) (2016). ***Varieties of Spoken French***. Oxford: Oxford University Press.
- DETEY, S. & LE GAC, D. (2008). Didactique de l'oral et norms de prononciation : quid du français « standard » dans une approche perceptive ? . IN : Durand, J. & Laks, B. (eds.). *Actes de Congrès Mondial de Linguistique Française*, pp. 475-487.
- DETEY, S. & LE GAC, D. (2010). Le français de référence: quels locuteurs ? In DeteyY, S., Durand, J., Laks, B. & Lyche, C. (éds.) *Les Variétés du français parlé dans l'espace francophone, Ressources pour l'enseignement*. Paris : Editions Ophrys, pp. 143-165.
- DURAND, J. & LYCHE. C. (2002). Structure et variation dans quelques systèmes vocaliques du français : l'enquête Phonologie du français contemporain (PFC). IN. : Sanders, C., Coveney, A. & Hintze, M-A. (eds.) *Variation et francophone*. Paris: L'Harmattan.
- DURAND, J. & LYCHE. C. (2008). French Liaison in the Light of Corpus Data. *Journal of French Language Studies*, 18, 1, pp.33-66.

参考文献

- FOUCHÉ, P. (1959). *Traité de prononciation française*. Paris : Klincksieck.
- HALL, D. (2019). (e) in Normandy : The sociolinguistics, phonology and phonetics of the Loi de Position. *Journal of French Language Studies*, 29, pp. 1-33.
- KAMOUN, C. & RIPAUD, D. (2016). *Phonétique essentielle du français A1/A2*. Paris : Les Editions Didier.
- KAMOUN, C. & RIPAUD, D. (2017). *Phonétique essentielle du français B1/B2*. Paris : Les Editions Didier.
- LAKS, B. (2002). Description de l'oral et variation : la phonologie et la norme. *L'information grammaticale*, 94, pp. 5-10.
- LYCHE, C. (2010). Le français de référence : éléments de synthèse, In Detey Y, S., Durand, J., Laks, B. & Lyche, C. (éds.) *Les Variétés du français parlé dans l'espace francophone, Ressources pour l'enseignement*. Paris : Editions Ophrys, pp. 143-165.
- MALLET, G. (2008). *La liaison en français : descriptions et analyses dans le corpus PFC*. Thèse de doctorat : Université Paris Ouest-Nanterre-La Défense.
- MORIN, Y-C. (2000). Le français de référence et les norms de prononciation. Francard et alii (éds), *Actes du colloque de Louvain-la-Neuve 3-5 1999, Cahier de l'institut de Linguistique de Louvain*, 26, pp. 91-135.
- RUVOLETTA, S. & KONDO, N. (forthcoming). La liaison variable : de manuels scolaires japonais au jugement. *Actes de CMLF 2020*.
- WALTER, H. (1976). *La dynamique des phonèmes dans le lexique français contemporain*. Paris : France-Expansion.
- 近藤野里 (2015a). 「フランス語の長母音と位置の法則」, 『ふらんぼー』, 41号, pp. 112-123.
- 近藤野里 (2015b). 『17世紀末および18世紀初頭フランス語におけるリエゾンの分析 – Milleran (1694)および Vauvelin (1713, 1715)の文献調査を基に–』 東京外国語大学, 博士論文.

ご清聴ありがとうございました

謝辞

本研究は

18K12473「日本人フランス語学習者の社会言語学的能力の発達過程に関する通時的研究」
若手研究, 2018年-2020年
の助成を受けたものです。